

# 話者間反復における制約の優位性に関する 予備的考察

—日本語自然会話を対象として—

常 艶麗\*・有元 光彦\*\*

A Preliminary Study on the Domination of Constraints in 'Repeating Utterances'  
between Speakers

— Targeting Japanese Natural Conversation —

CHANG Yanli\*, ARIMOTO Mitsuhiro\*\*

(Received September 29, 2023)

日本語の自然会話においては様々な反復現象が見られるが、中でもある話者の発話末尾文にある要素が次の話者の発話冒頭文に現れているような反復現象が観察される。本稿では、そのような会話における反復を「話者間反復」と呼ぶ。従来の研究では、話者間反復は「形態的な制約」「統語的な制約」「談話的な制約」によって、いくつかの候補から、最も多くの制約が満たされている要素が選ばれて起こることが分かった。しかし、それら3つ制約のうちどれが優位であるのかに関しては、未解明である。本稿では、話者間反復における制約の優位性について考察する。その結果、「形態的な制約の優位性が相対的に高い」ということを仮定する。

## 1. はじめに

日本語の二者間自然会話においては、以下のような反復現象が見られる。

(1) A: かなり材料を買って家から一歩も出なくていいぐらいのずっと料理して(うん)食べて、皿洗って、料理して、食べて、(うん)皿洗ってみたいなのんびりとした生活がこう繰り広げられているというか、まあちょっと鼻水が花粉症できつくて

B: ああ、俺も花粉症、この前山口県庁に行って、山口県庁って山で囲まれてるから

(1) では、話者Aの発話の末尾にある「花粉症」が話者Bの発話の冒頭に現れている(下線部参照)。これは話者間で起こる反復であり、話者Aの発話にすぐ続いて、当該要素が反復されている。本稿では、このような反復現象を「話者間反復」と呼ぶ。常(2022b:17)では、これを次のように定義している。

## (2) 話者間反復の定義:

話者Aの発話の末尾文 $S_1$ に含まれる $X$ と、話者Bの発話の冒頭文 $S_2$ に含まれる $Y$ が、同じあるいは類似している場合、 $X$ と $Y$ は話者間反復の関係にある。

A: (…) $\boxed{S_1 \dots X \dots}$   
B:  $\boxed{S_2 \dots Y \dots}$  (…)

常(2022b)では、話者間反復の中で、なぜ特定の要素だけが選ばれて反復されるのかという問題を解明した。その結果、話者間反復における形態的な制約、統語的な制約、談話的な制約を仮定した。そして、現れ得るいくつかの出力候補から、最も多くの制約が満たされている要素が選ばれることが分かった。

しかし、これら3つの制約の優先順位に関しては、まだ明らかになっていない。常(2022b)では、最適性理論(Optimality Theory)の考え方を利用したが、最適性理論で用いられているような制約のランキングは導入していない。そこで、本稿では、話者間反復の形態的・統語的・談話的な制約には、優位性が存在するのか、またどのような優位性になるのかについて検討していく。

\* 河南大学 中国河南省 changyanliscyl@qq.com

\*\* 山口大学 国際総合科学部 arimoto@yamaguchi-u.ac.jp

## 2. 先行研究

日本語自然会話における話者間反復に関する先行研究としては、現時点で常 (2021, 2022a, 2022b, 2023) だけである。常 (2022b:197) は、「話者間反復という現象は、1つの領域の制約だけが関与しているものではなく、形態的・統語的・談話的といった3つの制約の相互作用によって起こるものである」と述べている。話者間反復の3つの制約は以下の通りである。

### (3) a. 話者間反復の形態的な制約

文 (S<sub>i</sub>) を構成する要素の中で、定性あるいは独立性が相対的に高い要素が反復される。

### b. 話者間反復の統語的な制約

S<sub>i</sub>の文末に相対的に近い要素が反復される。

### c. 話者間反復の談話的な制約

文 (S<sub>i</sub>) においては、話題となる要素が反復される。

(cf. 常2022b:197)

(3)は、具体的には以下のように適用される。例えば、次のような会話データがあったとする (cf. 常2022b:67-68)。

### (4)

- 070201 N あ、そうそうそうそう、で、卒業式が3月24日なんよ(うん?)、てことはさ(うんうん)、報告書が2月末までってこと? よね?
- 070202 M たぶん
- 070203 N だったよね、てことは(うん)3月から完全に休みてってことか、24はまあ来るってなって、でも卒業旅行のことばっか考えとよる、(笑)物理が取れる計算
- 070204 M (笑)え?それは一人で行くやつか
- 070205 N そう、一人でいこうかなと思って
- 070206 M うんうんうん、そうよね
- 070207 N やけ、バイトを(うんうん)2月ぐらいに、2月いっぱい(うん)やめようって、2月いっぱい(うん)やめようって、もう引き払うんでとか言ってる(うん)、まあでも結局3月(うん)おらんやろうし、だって、3月だっておってもじゃないだって24日のさ(うん)、卒業式はまあ参加するとしても(うん)、わたしなんか袴がさ、なんか
- 070208 M うん、そや袴も決めなあかん

(4)はMとNの会話であるが、070207Nの末尾にある「袴」が、次の発話070208Mの初頭で反復されている。070207Nの発話には様々な要素が現れているが、その中から「袴」が選択されるためには、(3)の制約による常 (2022b) では仮定されている。(3)の3つの制約の相互作用は、具体的には【表1】のような制約のタブロー (tableau) によって計算され、より最適な要素が選択される。

【表1】 (4)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
わたし		*	*
袴			*

【表1】では、文 (S<sub>i</sub>) の構成要素である「わたし」「袴」が候補となっている。まず、形態的な制約については、いずれの要素も名詞であり、独立性が高いため、違反していない。従って、【表1】では空欄としている。次に、統語的な制約については、「袴」の方が文末に近い位置にあるため、「わたし」が違反していることになる。【表1】では、違反している箇所記号\*を記載している。最後に、談話的な制約については、会話の話題が卒業式やバイトのことであるため、いずれの要素も違反していることになる。

以上の最適性の計算を経て、違反した箇所がより少ない候補が選択されることになる。従って、「袴」が選択され、これが話者間反復されることになる。実際に、070208Mでは「袴」が反復されている。

以上から分かるように、話者間反復という現象は、1つのルールなどによって単純に記述されるものではなく、3つの制約の複雑な相互作用によって生成されるのである。

しかし、1節で述べたように、(3)だけですべての話者間反復を説明できるかという点、そうではない。様々な例外も現れている。これらを説明するためには、常 (2022b) の考え方をさらに発展させなければならない。そこで、本稿では、常 (2022b) の考え方に基づいて、議論を展開していく。

## 3. 会話データについて

本稿では、以下の2種類の会話データを利用する。

- 筆者独自で行った言語調査 (以下、「独自調査」と呼ぶ) による会話データ
- 『BTSJ 日本語自然会話コーパス (トランスクリプト・音声) 2018年版』(宇佐美まゆみ監修 (2018)。以下、

「BTSJコーパス」と呼ぶ)による会話データ

### 3. 1. 独自調査による会話データ

まず、2018年6月～2019年3月に行った、日本語母語話者による会話調査で収集した7本の会話データを利用する。会話調査は、大学生(10代後半～20代)の友人同士の二者間、男性ペア3組と女性ペア4組でそれぞれ行った。被調査者の名前はアルファベットA～Nに書き換える。調査時間は各30分間である。会話のテーマは指示していない(自由会話である)。また、調査者(筆者)は調査時同席していない。録音はiPhone7 plusのアプリ「ボイスメモ」を使用している。

本稿では、この会話データを次のような書式で記す。

010056 B 短パンはちょっと良くないかも(笑)  
010057 A そうなん?

初頭にある6桁の数字は、個々の会話データのIDである。最初の2桁はデータ番号、次の4桁は発話番号である。その次にあるアルファベットは話者記号である。その次に、会話データを漢字仮名交じりで表記している。また、文字化の際には、次のような記号を使用する。

- 、 [全角] ごく短いポーズを示す。
- ー 音声の伸ばしを表す。
- ? [全角] 直前部分が上昇調の抑揚で発話されていることを示す。
- ( ) [半角] 短く、特別な意味を持たない相づちは、( )にくくる。
- # [全角] 聞き取り不能であった部分につける。その部分の推測される拍数に応じて、同数の#をつける。
- (笑) 笑い声を表す。
- 「～名」 被験者等のプライバシーを保護するために明記できない氏名・名称を示す。また、各データでの出現順序によって通し番号をつける(例えば、「～名1」、「～名2」)。
- 『 』 [全角] 本や映画の題名のようななどを表す。固有名詞は、『 』でくくる。
- [ ] 発話の状態等を表す(例:[強調して])
- 反復される要素を含んでいる文(S1)を表す。
- 話者間反復の関係にある要素を表す。

### 3. 2. BTSJコーパスによる会話データ

独自調査による会話データに加えて、BTSJコーパスから抽出した7本(女性3組、男性4組)の日本語母語話者の自然会話データも利用する<sup>1)</sup>。これは、会話デー

タの量や種類を増やすことを目的としている。なお、独自調査の被調査者の属性と統一するために、友人同士の同性大学生(10代後半～20代)の日本語自然会話のみを選択し利用する。BTSJコーパスによる会話データの時間は各20分前後、総時間149分(約2時間30分)である。

本稿では、会話調査による会話データを次のような書式で記す。

11JM002 これ、何が見える?。  
12JM001 あんねー、とりあえずあれがー(うんうん)、うちの図書館??。

初頭にある数字・アルファベット交じりの7桁は、個々の会話データのIDである。最初の2桁は発話番号、次の5桁は話者記号である。その次に、会話データを漢字仮名交じりで表記している。BTSJコーパスの会話データに使用される記号は、宇佐美(2019)によるものである。

## 4. 考察

本節では、代表的な会話データのみを挙げ、「名詞が反復される場合」「動詞が反復される場合」をそれぞれ順に考察していく。

### 4. 1. 名詞が反復される場合

ここでは、名詞が反復される場合の会話データを分析する。まず、形態的・統語的・談話的な制約によって、最適性の計算結果と実際の会話で反復される要素が異なる場合の会話データを挙げる。(5)を見られたい。これは独自調査による会話データである。

- (5)
- 040423 G 楽しんどったわ、いやめっちゃ楽しんだ  
040424 H うん、すごいじゃん  
040425 G すごいよね  
040426 H インスタにあげて匂わせな、そういうのは  
040427 G 匂わせたいところだが、あれなんよ  
040428 H (笑)  
040429 G そう、まあ後で言うわ(笑)  
040430 H (笑) はい、めっちゃ響いた、笑い声が、え久しぶりに人と話したからやった、やば、こわいな(笑)  
040431 G 楽しかった  
040432 H バイトしかしてない、大阪旅行が終わったらマジで楽しみがないなー、もう学校始まるじゃん  
040433 G ゴールデンウィークなんかせんのか?

040434 H あ、ゴールデンウイークはね、福岡に帰る、ちょっとだけだけど、たぶん2、3日ぐらいいしか帰らんとと思うけど

(5)では、040433における話者Gの発話のうち、「ゴールデンウイーク」が反復されている。まず、形態的な制約によって、「ゴールデンウイーク」と「なん」が選ばれるが、「なん」は疑問詞なので、定性が低いため、「ゴールデンウイーク」より選ばれにくい<sup>2)</sup>。また、統語的な制約によって、「なん」は「ゴールデンウイークなんかせんのか」という文の末尾に相対的に近いので、これが選ばれる。最後に、談話的な制約によって、040423～040432の発話で話者Gと話者Hは「旅行」を話題として話しているため、「ゴールデンウイーク」と「なん」は両方とも選べないことになる。

その結果、「なん」は形態的な制約と統語的な制約によって選ばれるので、最も多くの制約によって選ばれる要素となる。すなわち、話者間反復の反復要素の候補となる。しかし、実際の発話では「ゴールデンウイーク」が反復されている。「ゴールデンウイーク」を選ばれるのは、形態的な制約によってのみである。「ゴールデンウイーク」が最終候補として選ばれることになるためには、形態的な制約が他の2つの制約よりも優位でなくてはならないということになる。

常(2022b)では、「3つの制約のうち、より多くの制約を満たす要素がアウトプットとして選択・反復される」と仮定していたが、これでは不十分である。「3つの制約の中には、優位性(domination)があり、より優位性が高い制約を満たす要素が選択・反復される」と考えられるのである。

この仮説を検証するために、(6)を見ていく。これはBTSJコーパスによる会話データである。

- (6)
- 11JM002 これ、何が見える?。
- 12JM001 あんねー、とりあえずあれがー(うんうん)、うちの図書館??。
- 13JM002 うん。
- 14JM002 でかいねー。
- 15JM001 ちゃう、あれだよ、ゆっても、国公立大で一番(うん)コンピューターのある大学らしいから。
- 16JM002 あ、そうなん?。
- 17JM001 めちゃめちゃある [強調して]。
- 18JM002 そうなん?。
- 19JM001 マックとウィンドウズと(うん)両方めちゃくちゃあって。

- 20JM002 で、あっちは?。
- 21JM001 あれがー、「施設名1略称」、「施設名1」っていう(うん)、うん、おれもよく分からん=。
- 22JM001 =行ったことがない。
- 23JM001 ちょっと、あんまり近寄りがたいところ=。
- 24JM002 =学食とかどこにあるん?。
- 25JM001 学食、あれ。

(6)では、24JM002の発話のうち、「学食」が反復されている。まず、形態的な制約によって、「学食」と「どこ」が選ばれるが、「どこ」は疑問詞であり、定性が低いため、「学食」よりも選ばれにくい。また、「どこ」は「学食とかどこにあるん」という文の末尾に相対的に近いので、統語的な制約によって選ばれる。最後に、談話的な制約によると、11JM002～24JM002の発話で話者JM001と話者JM002は「大学」を話題として話しているため、「学食」と「どこ」は両方とも選べない。

その結果、「どこ」は形態的な制約と統語的な制約によって選ばれるので、最も多くの制約によって選ばれる要素として、話者間反復の最終候補となるはずであるが、実際の発話では「学食」が反復されている。「学食」を選ぶのは形態的な制約だけである。この場合でも、形態的な制約が優位であると言えるだろう。

また、独自調査による会話データ(7)について述べたい。

- (7)
- 020001 C ああ、もう始まっとるんか
- 020002 D お疲れ
- 020003 C いやいや、お疲れお疲れ、なんか、あれやね、一週間ぶり?どのぐらい?どのぐらい?
- 020004 D 一週間以上空いてるんじゃないかな?
- 020005 C けっこう空いとるんやね、え?どう?最近  
何しとる?
- 020006 D 最近は

(7)では、020005の発話のうち、「最近」が反復されている。まず、形態的な制約によると、「最近」と「何」が選ばれるが、「何」は疑問詞であり、定性が低いため、「最近」よりも選ばれにくい。また、統語的な制約によると、「何」は「最近何しとる」という文の末尾に相対的に近いので、選ばれる。最後に、談話的な制約によると、020001～020005の発話で話者Cと話者Dは「挨拶」を話題として話しているため、「最近」と「何」は両方とも選べない。

その結果、「何」は形態的な制約と統語的な制約によっ

て選ばれるので、最も多くの制約によって選ばれる要素として、話者間反復の最終候補となるはずであるが、実際の発話では「最近」が反復されている。「最近」を選ぶのは形態的な制約だけである。この場合でも、形態的な制約が優位であると言えるだろう。

これまでの発話データでは、3つの制約による最適性の計算結果と、実際に話者間反復される要素とが異なる場合を扱ってきた。その結果、「形態的な制約が相対的に優位である」という優位性の仮説を立ててきた。しかし、最適性の計算結果と実際の会話で反復される要素が同じである場合、すなわち優位性の仮説がなくても記述できていた会話データの場合でも説明できるだろうか。(8)を見られたい。これはBTSJコーパスによる会話データである。

(8)

- 482JM013 <あの、合コンサークル>|>|よりは全然さ。
- 483JM013 でももっと遊びとおりきってもいいのかな、「サークル名1」。
- 484JM014 どうなんだろう。
- 485JM013 ね、微妙だよ。
- 486JM014 なんかおれ、2年とかのさ、なんか役割とかもさ(うん)、やりたいようなやりたくないようになっていう<軽く笑う>微妙な<###>|<|。
- 487JM013 <あー、でも>|>|一応やっといたほうがいいと思うよ。
- 488JM013 おれ、なにやろう。
- 489JM013 なんでもいいんだよなー。
- 490JM013 「サークルセクション名1」担当にはつきたいものの(うん)、「サークルセクション名2」の方が絶対に人数が多いよね。
- 491JM014 うん。
- 492JM013 「サークルセクション名1」。
- 493JM014 うん。
- 494JM013 え、でもさ、そんないくない?、「サークルセクション名1」、ぶっちゃけ。
- 495JM014 そうかな。
- 496JM014 けどあの、「サークルセクション名3」だってすごい量になってるしな<軽く笑う>。
- 497JM013 あ、でもなんだかんだいって「サークルセクション名3」、それでも「サークルセクション名3」、あー[自己完結している感じ]。

(8)では、496JM014の発話のうち、「サークルセク

ション名3」が反復されている。まず、形態的な制約によると、「サークルセクション名3」と「量」が選ばれるが、「量」は普通名詞であり、固有名詞よりも定性が低いので、「サークルセクション名3」よりも選ばれにくい。また、「サークルセクション名3」は「サークルセクション名3」だってすごい量になってるしな」という文の末尾に相対的に近いので、統語的な制約によって選ばれる。最後に、談話的な制約によると、482JM013~496JM014の発話で話者JM013と話者JM014は「サークル」を話題として話しているので、「サークルセクション名3」と「量」は両方とも選ばれない。

その結果、「サークルセクション名3」は形態的な制約と統語的な制約によって選ばれるので、最も多くの制約によって選ばれる要素として、話者間反復の最終候補となる。

以上の考え方は、優位性の仮説を立てない場合のものである。優位性の仮説を立てた場合、形態的な制約が相対的に優位であるため、やはり「サークルセクション名3」が選ばれることになる。従って、従来の考え方で説明できていた現象も、優位性の仮説によって説明可能であることになる。

#### 4. 2. 動詞が反復される場合

ここでは、動詞が反復される場合の会話データで検証していく。まず、形態的・統語的・談話的な制約によって、最適性の計算結果と実際の会話で反復される要素が異なる場合の会話データを挙げる。(9)を見られたい。これは独自調査による会話データである。

(9)

- 020078 D 今最近はね
- 020079 C ね、今だからアルバイトとかも全部休みで
- 020080 D 就活一本で、就活一本で
- 020081 C 就活一本でもないんですよ僕
- 020082 D まあまあこれから受けるかもしれないしわからないからってことですね
- 020083 C そうそうそうそう、今日催促のメールが来てってセブンイレブンから、予約がもう3月5日までですよって言って、あ、予約せんといけん、あのう昨日スーパーで
- 020084 D うん
- 020085 C かなり材料を買いまして家から一歩も出なくていいぐらいのずっと料理して(うん)食べて、皿洗って、料理して、食べて、(うん)皿洗ってみたいなのんびりとした生活がこう繰り返されているというか、まあちょっと鼻水が花粉症できつくて

- 020086 D ああ、俺も花粉症、この前山口県庁に行っ  
て、山口県庁って山で囲まれてるから
- 020087 C 確かに
- 020088 D そこでなんか花粉症をもらってたっていう  
か
- 020089 C もらった？

(9)では、020088話者Dの発話のうち、「もらった」が反復されている。まず、形態的な制約によって「もらった」と「いう」が選ばれるが、「いう」は「っていう」の形で使われているため、独立性が低い。そのため、「もらった」よりも相対的に選ばれにくい。また、「いう」は「そこで花粉症をもらってたっていうか」という文の末尾に相対的に近いので、統語的な制約によって選ばれる。最後に、談話的な制約によると、020078～020088の発話で話者Cと話者Dは「最近の出来事」を話題として話しているので、「もらった」と「いう」は両方とも選ばれない。

その結果、「いう」は形態的な制約と統語的な制約によって選ばれるので、最も多くの制約によって選ばれる要素として、話者間反復の最終候補となるはずである。しかし、実際の発話では「もらった」が反復されている。「もらった」を選ぶのは形態的な制約だけである。この場合も、「形態的な制約が優位である」という優位性の仮説を立てることで説明できる。これによって、名詞が反復される場合も、動詞が反復される場合も同様に記述することができる。

「形態的な制約が優位である」という仮説は、3つの制約による最適性の計算結果と、実際の会話で反復される要素が同じである場合でも説明できる。(10)を見られたい。これも独自調査による会話データである。

(10)

- 050433 J うん、どうしていいかわからん、でもな、  
ある程度稼げる職に就きたいな
- 050434 I そうそう、やっぱそこなんよね
- 050435 J 将来安定しときたい、まじで
- 050436 I そこよね
- 050437 J お金に困りたくないもん
- 050438 I うん、そうよね、やっぱりかわいい服着た  
いっていうのが一番だもん
- 050439 J (笑)
- 050440 I かわいい服着て、割とまあ中の上くらいの  
生活をして
- 050441 J うんうん (笑)
- 050444 I (笑)っていう理想があるんよね
- 050445 J そうよね、それはあるわ、まじで、だって

さ、そんなぜいたくな生活をして生きてない  
いけさ

(10)では、050444話者Iの発話のうち、「ある」が反復されている。まず、形態的な制約によると、「いう」と「ある」が選ばれるが、「いう」は「っていう」の形で使われており、独立性が低いため、「ある」よりも選ばれにくい。また、「ある」は「っていう理想があるんだよね」という文の末尾に相対的に近いので、統語的な制約によって選ばれる。最後に、談話的な制約によると、050433～050444の発話で話者Jと話者Iは「理想の生活」を話題として話しているので、「いう」と「ある」は両方とも選ばれない。

以上より、「ある」は形態的な制約と統語的な制約によって選ばれるので、最も多くの制約によって選ばれる要素として、話者間反復の最終候補となる。一方、優位性の仮説を立てる考え方では、形態的な制約が相対的に優位となるため、「ある」が選ばれ、最終候補となる。従って、優位性の仮説を立てたとしても説明できる。

また、(11)について述べたい。これはBTSJコーパスによる会話データである。

(11)

- 636JM014 おれはさー、あの、「サークル名2」ってやつに  
いって、外人の友達でも作ろうかと思  
って<軽く笑う>。
- 637JM013 あー、おれそれ(うん)、真剣に行こうか  
と思っただよ、おくれも><|<|。
- 638JM014 <うん>>|<|。
- 639JM013 ね。
- 640JM014 うん。
- 641JM013 てか、そういうの行って、英語、ばな、
- 642JM014 そう<そうそう>><|<|。
- 643JM013 <学び>>|>|たくない?。
- 644JM014 ちょっとさー、なんかさー、留学に、い、
- 645JM013 行こう。
- 646JM014 のきっかけになるか<なって>><|<|。
- 647JM013 <行こう>>|>|、じゃあ。
- 648JM014 <うん>><|<|。
- 649JM013 <おれ>>|>|も行っていい?。
- 650JM014 うん、いいよ。
- 651JM014 来週の金曜にでも。
- 652JM013 うん。
- 653JM013 <まい>><|<|【】。
- 654JM014 【】<来>>|>|週ってか、今週か。
- 655JM013 うん、いいよ、全<然>><|<|。
- 656JM014 <今>>|>|週の金曜日でも行く<か>><|<|。

- 657JM013 <昼> |> 休み?。  
 658JM014 うん?。  
 659JM013 昼休み?。  
 660JM014 いや、なんか、えーと、かぶってんだよ、「サークル名1」と。  
 661JM013 よくない?、金曜日ぐらい。  
 662JM014 うん。  
 663JM014 だか、1回休んで行こうかと思ってさ。  
 664JM013 うん、行こう [↑]。

(11) では、663JM014の発話のうち、「行こう」が反復されている。まず、形態的な制約によると、「休んで」「行こう」「思って」が選ばれるが、「思って」は「と違って」の形で使われており、独立性が低いため、「休んで」「行こう」よりも選ばれにくい。また、「思って」は「1回休んで行こうかと思ってさ」という文の末尾に相対的に近いので、統語的な制約によって選ばれる。最後に、636JM014~663JM014の発話で話者JM013 と話者JM014 は「「サークル名2」に行く」ことを話題として話している。すなわち、「行こう」が話題の要素となっているため、談話的な制約によって選ばれる。

以上より、「行こう」は形態的な制約と談話的な制約によって選ばれるので、最も多くの制約によって選ばれる要素として、話者間反復の最終候補となる。一方、優位性の仮説を立てる考え方では、形態的な制約が相対的に優位であるため、「行こう」が選ばれ、話者間反復の最終候補となる。従って、この場合でも優位性の仮説によって説明できる。

最後に、(12) も見られたい。これも、(11) と同様、BTSJコーパスによる会話データである。

- (12)  
 256JM016 「人名5」はな (<軽い笑い>)、ここ一番で言うからな、  
 257JM015 そう<そうそう> |> <笑いながら><2人で笑い>。  
 258JM016 <みたいなね> |> <笑いながら>。  
 259JM015 ちょ、ちゃんと口止め (<笑い>) しとかなないと怖いんだよね。  
 260JM015 なんか、前、「人名5」と2人で飲んでてさ(うん)、うん、それを、話したらさ(うん)、あの『JM015あだ名』、みじ、みずくせーよ」とかい<笑い>。  
 261JM016 うーん、おれ何にも聞いてないからー (<笑い>)。  
 262JM015 「JM016あだ名」も隠してたじゃん<若干笑いながら>。

- 263JM015 あ<ーの、彼女のこと> |>。  
 264JM016 <あー、まあ> |> ね。  
 265JM015 うん。  
 266JM016 隠してた<っていうか> |> ..  
 267JM015 <隠してた> |>。  
 268JM015 <まー、別に> |>。

(12) では、266JM016の発話のうち、「隠してた」が反復されている。まず、形態的な制約によると、「隠してた」と「いう」が選ばれるが、「いう」は「っていう」の形で使われており、独立性が低いため、「隠してた」より選ばれにくい。また、「いう」は「隠してたっていうか」という文の文末に相対的に近いので、統語的な制約によって選ばれる。最後に、262JM015~266JM016の発話で話者JM015と話者JM016は「JM016が彼女を隠してた」ことを話題として話しているのので、「隠してた」が話題の要素となっている。そのため、これが談話的な制約によって選ばれる。

以上より、「隠してた」は形態的な制約と談話的な制約によって選ばれるので、最も多くの制約によって選ばれる要素として、話者間反復の最終候補となる。一方、優位性の仮説を立てる考え方においても、「隠してた」が最終候補となる。従って、優位性の仮説においても説明できることが分かる。

## 5. 議論

以上の節では、常(2022b)で仮定した3つの制約(3)による最適性の計算によって説明不可能な場合を取り上げた。そして、それを説明するために、次のような制約間の優位性を仮定した。

### (13) 制約間の優位性：

形態的な制約の優位性が相対的に高い。

すなわち、3つの制約の間には優位性があり、より優位性が高い制約を満たす要素が選択・反復されるのである。

さて、このような「優位性」という概念はプリンス・スモレンスキー(2008)でも仮定されている。以下に引用する。

(14) 「与えられた入力に対して、どの分析が相反する適格性の条件の集合をもっともよく満たしているかを、文法はどのように決定するのであろうか。最適性理論(Optimality Theory)は、ある制約の遵守よりも絶対的に優先されるように指定できるといふ、制約の相互作用に関する、概念的には単純だが

驚くほど奥の深い考え方に基づいている。文法の用いる相互対立の解決手段は、制約を厳密優位性階層 (strict domination hierarchy) にランク付けすることである。どの制約も、階層上でその制約より低くランク付けされた制約に対して絶対的な優位性をもっている。」(cf. プリンズ・スモレンスキー 2008:4)

(14) で注意しなければならないことは、ここで言う優位性とは、一つの部門 (component) の中だけで適用される諸制約の間の相互作用であるということである。例えば、音韻部門 (phonological component) であれば、その中だけで適用される音韻制約どうしのランク付けを仮定しているのである。一方、本稿での考え方は、部門間の優位性を仮定している。ここに両者の大きな考え方の違いがあることになる。

ただ、本稿では、話者間反復という一つの現象を対象としたに過ぎず、しかも各部門で一つずつの制約しか仮定していない。例えば、話者間反復を記述するために、形態的な制約が複数関与するのであれば、それらの制約間に優位性が見いだせるのかもしれない。しかし、実際はそうはなっていないようである。各部門の中の制約をマイクロなレベル、各部門を代表する制約をマクロなレベルと位置付けると、「話者間反復という現象は、相対的にマクロな制約の相互作用によって生成される」のかもしれない。言うまでもなく、このような捉え方が妥当であるのか、そして何よりも話者間反復がなぜ各部門一つずつの制約だけで説明できるのかということについては、議論の余地がある。

また、なぜ形態的な制約の優位性がより高いのかという点についても、疑問が残ったままである。3つの制約を観察すると、形態的な制約が最も複雑に見える。(3) では、形態的な制約を1つにまとめたが、「定性」の問題と「独立性」の問題とは本質的に異なるため、別の制約として捉えなおした方が妥当かもしれない。

## 6. おわりに

本稿では、話者間反復に関する制約間に優位性が存在するのかという問題について考察した。その結果、「形態的な制約の優位性が相対的に高い」という仮説が得られた。しかも、このような優位性の階層を仮定することによって、従来説明できなかった会話データも説明できるようになった。

しかし、多くの課題も残っている。もっとも大きな課題は、会話データの量である。量的には非常に少ないため、さらに例外が現れる可能性があるだろう。また、理論的な問題も多く残っている。3つの制約に対する「な

ぜそのような制約になるのか」という問題をはじめ、そもそも「話者間反復とはどういう現象なのか」「反復とは何なのか」という本質的な問題まで、理論的な解明が待たれる。

今後は、会話データの量と種類を増やし、様々な問題を解明していくしかないだろう。

## 注

- 1) 『BTSJ日本語自然会話コーパス (トランスクリプト・音声) 2018年版』には、合計333本、総時間4746分24秒 (約79時間) の会話が収録されている。このうち音声付きデータは203会話、2402分22秒 (約40時間) である。このコーパスに収録されている会話は、会話参加者の年齢、性別、話者間の上下・親疎関係、話題などが統制された形で収集されている。
- 2) 形態的な制約には、そもそもどの要素を候補として選ぶのかという問題が残されている。(5) では、040433Gの発話のうち、「ゴールデンウイーク」と「なん」しか候補として選ばれていない。なぜ「せん」や「のん」といった要素は候補とならないのだろうか。聞き手Hにとっては、話者間反復の候補は名詞である必然性はなく、どのような要素であれ反復する可能性はあるのである。この点、現在の形態的な制約 (3a) では説明できない。この問題は、話者間反復を議論するうえで非常に重要な問題ではあるが、現時点では今後の課題としたい。本稿では、記述の便宜上、反復された要素と同じ品詞を持つ要素が、形態的な制約によって候補として選ばれるとしておく。

## 参考文献

- アラン・プリンズ, ポール・スモレンスキー, 深澤はるか [訳] (2008) 『最適性理論—生成文法における制約相互作用』岩波書店
- 宇佐美まゆみ監修 (2018) 『BTSJ 日本語自然会話コーパス (トランスクリプト・音声) 2018年版』国立国語研究所 機関拠点型基幹研究プロジェクト「日本語学習者のコミュニケーションの多角的解明」, サブ・プロジェクト「日本語学習者の日本語使用の解明」(リーダー: 宇佐美まゆみ)
- 宇佐美まゆみ (2019) 「基本的な文字化の原則 (Basic Transcription System for Japanese: BTSJ) 2019年改訂版」国立国語研究所 機関拠点型基幹研究プロジェクト「日本語学習者のコミュニケーションの多角的解明」, サブ・プロジェクト「日本語学習者の日本語使用の解明」(リーダー: 宇佐美まゆみ)
- 小野寺典子 [編] (2017) 『発話のはじめと終わり—語用

- 論的調節のなされる場所』ひつじ書房
- 常艶麗 (2021) 「日本語自然会話における「話者間反復」  
についての統語的分析の試み—一格成分が関わる場合を  
対象として—」『比較文化研究』第145号 pp.121-136
- 常艶麗 (2022a) 「日本語自然会話における「話者間反復」  
について—名詞が反復される場合を対象として—」『東  
アジア研究』第20号 山口大学東アジア研究科 pp.90-  
120
- 常艶麗 (2022b) 『日本語自然会話における「話者間反復」  
に関する研究』山口大学東アジア研究科博士学位論文
- 常艶麗 (2023) 「日本語自然会話の話者間反復における  
「反復発話」の統語的分析—一格成分が関わる場合—」  
『山口大学教育学部研究論叢』第72巻 pp.305-310
- 杉山ますよ (2002) 「くり返しの形状・分布と機能」『別  
科論集』第4号 大東文化大学 pp.67-87
- 竹田らら (2017) 「どの場面で、誰が、何を、何のため  
に「繰り返す」のか—二種類のジャンルにおける「反  
復」の機能とそれがもたらす協調性—」『日本語学』  
36 (4) 明治書院 pp.70-80
- 程莉 (2020) 『「重複」の文法的研究』ひつじ書房
- 伝康晴 (2007) 「発話冒頭付近での語句の繰り返しの機  
能」『時間の中の文と発話』申田秀也ほか [編] ひつ  
じ書房 pp.103-133
- 中田智子 (1992) 「会話の方策としてのくり返し」『国立  
国語研究所研究報告集13』国立国語研究所 [編] 秀  
英出版 pp.267-302
- 牧野成一 (1980) 『くりかえしの文法』大修館書店
- 三牧陽子 (2013) 『ポライトネスの談話分析—初対面コ  
ミュニケーションの姿としくみ—』くろしお出版
- メイナード, 泉子・K (1993) 『会話分析』くろしお出版
- メイナード, 泉子・K (2005) 『談話表現ハンドブック』  
くろしお出版